

- 1980 広島生まれ 現在 ドイツ・ベルリンと広島にて活動中
- 2004 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
- 2006 ベルリン・バイセンゼー美術大学研究生
- 2007 広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学
- 2009 広島市立大学芸術学部現代表現領域協力研究員 2009年度前期
- 2010 文化庁新進芸術家海外研修生 1年間

[主な個展]

- 2020 「What You Might Have Seen in Berlin」 /SOMA/ベルリン
- 2019 「Supernature A Performative Dialogue between Landscape and Garden」 /St. Matthäus-Kirche /ベルリン
The Nature of Action in "Dritten Land" 「Duet in No man's land」 /Matthäikirchplatz/ベルリン
- 2018 「Kreuzberg bleibt unhöflich」 Kunstquartier Bethanien/ベルリン
- 2017 「ikóynu」 Gallery t/東京
- 2016 Asian Art Show 2016 「Linguistic Atlas」 NON Berlin/ベルリン
- 2014 「Humming Dialog」 ベルリン日独センター/ベルリン
- 2013 「ハリーバリーコーラス」 アサヒアートスクエア/東京
- 2009 都市ギャラリープロジェクト「みどりの家といきものキャラバン」 /広島
- 2006 「KURUMAGAAGAA AMEZAAZAA KIKIWASAWASA SEMIJIJIJIJI KAZEYUUBYUU HITOZAWAZAWA」 YebidenGallery/広島

[主なプロジェクト・グループ展]

- 2019 Residency program at TIFA Working Studios/Pune, インド
Residency program at Farm Studio/Andore, Rajasthan, インド
「Artrooms Fair London 2019」 /Meliã White House Hotel/ロンドン
- 2018 「AlmResidency goes Dis-mantle」 /Dis-mantel/ミュンヘン
Residency program 「Alm Residency」 /バーキルヒェン/ドイツ
「Room Service」 /Plus.Dede/ベルリン
- 2017 「Fensterflügel Ausstellung」 /Projektraum Ventilator 24/ベルリン
Sapporo Tenjinyama Art Studio Residence Program 2017 「s(k)now」 /さっぽろ天神山アートスタジオ、札幌
- 2016 「kritischer Moment」 /Galerie AG für zeitgenössische Kunst/バード ドベラン/ドイツ
「OPEN SPACES」 /ポッホルト/ドイツ
- 2014 「するがのくこの芸術祭 富士の山ビエンナーレ」 /静岡
「ゲンビどこでも企画公募2014」 /広島市現代美術館、広島
- 2013 「土湯アラフドアートアニュアル 2013」 /土湯温泉町、福島
「Berlin Art Junction」 GIZ-Haus Berlin/ベルリン 2012 「Cosmos」 Galerie 5th people project/ベルリン
- 2011 「Nippon Nacht vol.2」 Theaterhaus Berlin Mitte/ベルリン
「中之条ビエンナーレ2011」 /群馬県中之条町
「Durchgang」 48 Stunden Neukoelln/ベルリン
- 2010 「WE ARE THE ISLANDS」 Kunstraum Kreuzberg Bethanien/ベルリン
「almost the same, but not quite」 48 Stunden Neukoelln/ベルリン
「Last Temptation」 Co-Lab. /コペンハーゲン/デンマーク
- 2008 「Hiroshima Art project 2008 旧中2 汽水城」 吉島/広島
「Show me the way!」 Galerie la-condition-japonaise/ベルリン

[主な文献&賞]

- 2014 第17回文化庁メディア芸術祭アート部門審査員会推薦作品にノミネート/日本
- 2013 福永敦展 ハリーバリーコーラースーまちなかの交響、墨田と浅草/アサヒ・アートスクエア/日本
Berlin Art Junction AUSSTELLUNG 7/GIZ-Repraesentanz Berlin/ドイツ
- 2009 Papercraft Design and Art with Paper/gestalten/ドイツ
- 2009 Tangible High Touch Visuals/gestalten/ドイツ

私は「言語を通して他者を経験する」ことに興味があります。オノマトペ（擬音語）を表す声や文字を利用して音を言語化する方法は、私の主な作品制作の手法の一つです。音を模倣した言葉「オノマトペ」、その語源はギリシャ語で「言葉を創造する」という意味です。

私は今まで、異なる言語を話す人たちと共同して新しいオノマトペを創作してきました。独自の手法を介して生まれたオノマトペを使ったサウンドインスタレーションは、私の代表作の作品の一つです。（「The hurly-burly chorus」2013、「Humming Dialogs」2016）

この作品は、サウンドスケープ※という概念を基に作られています。ここでは様々な土地に住む住民の「声」が環境音として使われます。実際の環境音を地元住民に聞いてもらい、それを彼らのオノマトペで再現してもらいます。この作品では、地元住民の知覚した音を具象化することで、その土地の言葉や歴史、そして環境を新たな視点から見つめ直しています。また、音を再現する手法として、「文字」も使用しています。コラージュ作品の「Echoic billboard」（2016 - ）、「Storyteller」（2015、2018）では、実際には見ることができない音を「文字」を使って可視化し、視覚を通して音を捉えようとした作品です。

「Kreuzberg remains impolite」（2018）、「Marvelous Catchphrase」（2016）では、「言葉」そのものに焦点を当てて作品制作をしています。ここでは、他者の言葉を引用/盗用することで、時世で異なる言葉の解釈（意味）を観察することを試みています。社会に付随して形を変え続ける言葉に焦点を当てると、そこから現代社会の姿が浮かび上がってきます。

言葉や音の解釈は国や民族、そして文化によって異なります。私は、他者との関係を通してそれらを再構築しますが、その生まれ変わった言葉や音は、謂わば「具象化された差異」とも言えます。私の作品では、その差異を鑑賞者が体験することで「皆が異なる」という事を共感、経験、そして認識することを目指しています。

※カナダの作曲家マリー・シェーファー/Raymond Murray Schaferが日常生活や環境の中での音の役割・重要性を提唱した概念